紀伊民報
2009年(平成21年)1月22日 木曜日 第19883号 (12)

水族館の餌

水族館へ行こう！ 74

京都大学白浜水族館

加藤 哲哉

動物園や水族館に行って、餌やりの時間にうまく出合えるとうれしいものだ。動物たちがどんなものを食べるか、どんなふうに食べるか見ることができる。白浜水族館で動物たちに与えている餌について紹介しよう。

一般的に、魚類には魚の切り身を与えているというイメージがあると思うが、当館で主に与えているのは配合飼料のペレットである。これは養殖業者が使っているもので、切り身を与えるのに比べて価格が安く、魚を包丁で切る手間がいらない。主にトラフグ養殖用のペレットを与えている。これは脂肪分が少なく、ろ過槽への負担が少ない。

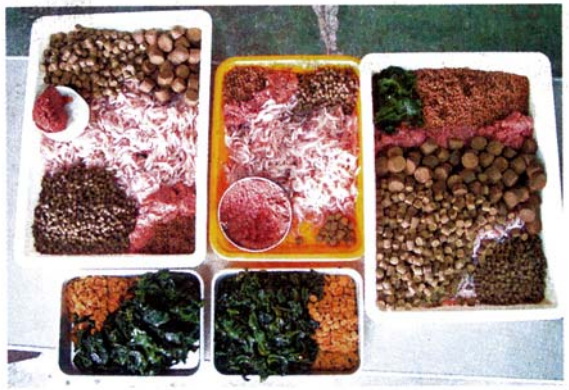
以前は当館でも魚の切り身を使っていた。ペレットに切り替えたときは食べるようになるのに1カ月ほどもかかった魚がいたそうだ。さらに、サメやエイの仲間はペレットを全く食べてくれない。現在、1週間に1度、アジの切り身を与える日があるが、一部の魚やカニには週に3回与えている。

魚以外の動物、カニやヒトデ、イソギンチャクなどの無脊椎（むせきつい）動物はペレットを食べないものが多い。主に与えているのは釣り餌でもおなじみのナンキョクオキアミやアミである。ウニやアワビなどは主に海藻を食べるので、週に3回塩ワカメを戻して与える。カニやメジナ類など一部の魚も喜んで食べる。

プランクトンなどを食べるサンゴなどや、小さな魚の幼魚などにはオキアミ、アミ、ペレットをミキサーにかけて作るミンチを与える。当館では〝桃色ミンチ〟と呼んでいる。さらにこれを海水で薄め、ペットボトルに入れて冷凍したものも作る。これを水槽の上に逆さまにつるしておくと解け出して少しずつ給餌される仕組みだ。これにより、サンゴの触手がずっと開いた状態になり観察しやすくなる。

当館の餌やりの時間は朝昼の1日2回。朝は開館前に少量を与えるが、昼は午後3時ごろにほぼ全館の水槽に与えるので、餌を食べる様子が見たい方はこの時間を狙ってくるとよいだろう。ただし作業の都合上、餌やりの時間が変わる日もあるのでご了承願いたい。

（京都大学技術職員）



飼育展示されている動物に与えるさまざまな餌

ペレット、オキアミ、塩ワカメ…